

東京 2020 大会等に向けた三鷹地域連携会議
大会レガシーに関する提言及び活動報告書

令和 4 年 2 月

はじめに

東京 2020 大会から三鷹市が継承すべきもの

東京 2020 大会等に向けた三鷹地域連携会議

座長 吉田 武

東京 2020 大会を迎えるにあたり、三鷹地域連携会議には錚々たる委員の皆さんにお集まりいただいていたので、どのようにして広く市民の皆様にご感動体験を創出し、大会後のレガシーを継承していくのか、しっかり委員の皆様の意見を三鷹市に伝え、連携していかなければならないと考えていました。地域連携会議では、特に三鷹の子どもたちに直接競技を見てもらいたい、三鷹のゆかりの選手を応援してほしい、障がい者スポーツを三鷹でより多くの人に知ってもらいたいという熱のあるご意見が多かったように思います。

2019 年にはラグビーワールドカップ日本大会が開催され、多くの市民がラグビーに魅了されました。いよいよ次は東京 2020 オリンピック・パラリンピックというときに新型コロナウイルスの感染が世界中で拡大し大会の 1 年延期が決定しました。私は、三鷹市のオリンピック聖火ランナーに決まっていたので、しっかり走れるよう体のケアとランニングに努めるばかりでした。こうした日々を送るにあたっては、白血病と闘う池江璃花子選手の姿にも元気づけられ、改めてスポーツの力を強く感じたところです。

三鷹の子どもに直接競技を見てほしかった東京 2020 大会は、無観客開催となりました。市内でも都立井の頭公園ライブサイトの中止、聖火リレーの点火セレモニーへの変更、小中学生の競技観戦の中止など残念でなりません。一方でテレビやネットを通じて伝わってくる選手の活躍は、互いを尊敬し合う数多くのシーンとともに、清々しい気持ちにさせられました。

新型コロナウイルスによる外出自粛など日常生活の制約から、人と人とのつながりの大切さ、運動による健康増進への影響の大きさを実感するとともに、オンラインによる交流やオンラインを通じたスポーツの楽しみ方など新しい発見もありました。こうした教訓や新しい視点をしっかりとレガシーとして継承することが大切なことだと考えます。

パラリンピックでは選手の活躍に感動しましたし、チリのパラ卓球とパラアーチェリーの選手が三鷹で事前合宿をし、三鷹市がチリのホストタウンであることは、継承すべき大きな財産であると考えます。

このようなことから、本会議が取りまとめた提言について、三鷹市としてしっかりと受け止めて実践につなげていただくことを大いに期待しています。

コロナ禍の東京 2020 大会から紡ぐもの

東京 2020 大会等に向けた三鷹地域連携会議

副座長 岡田眞由美

2020 年のオリンピック・パラリンピックが Tokyo に招致が決定し、仲間たちと狂喜乱舞したことが記憶にあります。まさか、東京 2020 オリパラ大会がコロナ感染拡大により無観客開催になるとは、誰も想像していませんでした。

聖火リレーが市内を走ることなく、競技場や公園でのトーチキスで終わり、目を輝かして聖火リレーを観る子どもたちを想像していましたが、一部の市民のみが、その様子を見るという残念なことになりました。チリ国の選手を、ホストの三鷹市民がチリ国旗を振り、熱烈にお迎えしたかったのですが、海外の選手をお迎えする事に否定的な方もおり、お見送りも、市役所職員やスポーツ推進委員の数名でした。ですが、リモートでの交流を通じて、親近感が湧き、活躍を祈り応援しました。メダル獲得はとても嬉しく思いました。

私自身、オリンピックは、シティキャストとして、井の頭公園のライブサイトを盛り上げようと、リーダー研修を受けていましたが、ご存知の通りライブサイトは中止になりました。

パラリンピックでは、フィールドキャストとしてパラ競技に関わりたいと思い、何度も研修を受講しました。1年延期になりリモートでの研修も受けました。活動場所は、武蔵野地区の身近な競技場を希望しましたが、世田谷区の馬事公苑になりました。活動内容は、PEM(ピープルマネジメント)人材管理です。ボランティアの皆さんや大会関係者が、ストレスなく活動ができるよう、縁の下のその下の役目です。はじめましての仲間との活動で、色々なボランティアに参加されている方が多く、改めてボランティアの意義を考える機会になりました。早朝から深夜までの活動、片言英会話・ボディランゲージを駆使したこと。一生に一度しか出来ない多くの経験は、生涯の宝物になりました。今大会のボランティアの活動が国内外の選手や大会関係者から称賛されました。無観客になり、観客をサポートすることは出来ませんでした。何か心に残る日本人らしい「おもてなし」はできないかと、ボランティアスタッフの仲間たちと「折り紙」を大量に作りお土産に持ち帰ってもらいました。喜んで頂ける喜びを感じ得たこと、改めて共助というレガシーを培った大会であったと思います。

パラリンピックを、多くの方がテレビ画面ではありますが、選手を応援して感動し、パラスポーツを通じて共生社会を感じ得たと思います。この機運が沈むことなく、一過性のものにならないよう、より一層の理解と啓発を図り、障がいのある方と共にスポーツを楽しむ為の理解促進を図っていきたく思います。

東京 2020 大会聖火ランナーとして次世代へつなぐ思い

東京 2020 大会等に向けた三鷹地域連携会議
副座長 森屋 賢

世界中に襲いかかった新型コロナウイルス感染症により、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会は1年の開催延長、無観客開催など今までとは全く違った大会になりました。私は学生時代からスポーツに親しみスポーツから仲間の大切さや喜びや悲しみなど多くの事を学ぶ事ができました。

この東京 2020 大会が決定した当初、私はこの大会を通して三鷹市でも、世界レベルの選手達との交流や活躍を直接目にする事により多くの子どもたちをはじめとした市民がスポーツを身近なものに感じスポーツを行う人が増えれば良いなと考えていました。また、パラスポーツを通して障がいのある方達との交流も活発に行われると良いなとも考えていました。

新型コロナウイルス感染症の拡大によりスポーツはおろか、普通に人と会う事さえ難しい状況の中、東京 2020 大会が開催されました。私は聖火リレーのランナーとして参加することが出来ました。緊急事態宣言中の為、公道での走行は出来ませんでした。武蔵野陸上競技場にランナーが集まりトーチキスで聖火を繋ぐセレモニーが行われました。アテネから約1万人のランナーが繋いできた聖火を、自分も繋ぐ事が出来た事は本当に良い思い出になりました。

しかし、コロナ禍の中、聖火ランナーを辞退するランナーもいて、私自身選ばれた事を素直に喜んで良いものなのかも分からず、身近な人にしか伝える事が出来ませんでした。当日も競技場の外では東京 2020 大会開催に反対する人達がデモ行進を行っていました。今回の東京 2020 大会は様々な考えの人達がいる中、開催されるのだと改めて考えさせられました。

そのような中でも、何かレガシーに繋がる事が私にも出来ないかと考え、聖火リレーで使用したトーチとユニフォームを見て貰うことで東京 2020 大会を身近に感じて貰いたいと思いました。市内約10校の小中学校と幼稚園に出向いて、トーチとユニフォームを見て貰いながら自分が経験した事、感じた事を話してきました。その時の子ども達そして先生達の嬉しそうな表情は忘れられません。少しでも良い思い出として記憶に残っていただけたら嬉しいです。

最後に、大会は無観客になり、またアスリートとの直接の交流は出来ませんでしたが、困難の中行われた東京 2020 大会を通して、子ども達はアスリートの活躍から多くの事を感じた事と思います。それらを次世代に伝えて貰いたいです。そして、今後さらにスポーツに関心を持つ人が増えスポーツ実施率が高まり、運動習慣を身につけ健康で長生きする人が増えることがレガシーとして残せればと思います。また、パラスポーツ、パラアスリートを通して障がい者との交流、そして理解が進む事もレガシーとして残していただきたいです。

目 次

第1章 大会レガシーに関する提言	7
------------------	---

第2章 ラグビーワールドカップ、東京2020大会に関する事業実績と今後の取り組み	
--	--

1 ラグビーワールドカップ	8
---------------	---

2 東京2020大会	10
------------	----

5つのテーマ

(1) 子どもたちに向けた取り組みの充実	12
----------------------	----

(2) 障がい者スポーツの普及と障がい者理解の促進	14
---------------------------	----

(3) 国際交流（ホストタウン事業等）の推進	16
------------------------	----

(4) 三鷹市ゆかりの選手の応援と自転車ロードレースのPR	18
-------------------------------	----

(5) 大学生による地域の盛り上げ	20
-------------------	----

資料編

1 会議設置要綱	25
----------	----

2 会議開催一覧	29
----------	----

3 事業実施一覧	31
----------	----

第1章 大会レガシーに関する提言

東京 2020 大会等に向けた三鷹地域連携会議は三鷹市に対して以下を大会レガシーとして継続して実施するよう提言します。

1 スポーツ実施率の向上を通じた健康都市づくりの推進

ラグビーワールドカップ 2019 と東京 2020 大会をきっかけとして、市民のスポーツへの関心は高まりました。こうした気運を捉え市民の運動習慣が定着するよう、「継続的」「計画的」な運動を支援することにより、スポーツ実施率の向上を図り、市民の健康増進に一層取り組んでください。

2 子どもの感動体験、オリンピック・パラリンピック精神に関する学びの充実

次代を担う子どもたちが東京 2020 大会等の感動体験を今後につげられるよう、三鷹ゆかりのオリンピック・パラリンピアンとの体験教室や交流、チリとの交流などを通じて、ボランティアマインド、障がい者理解、平和の希求、人権の尊重、豊かな国際感覚などの資質を伸ばせる環境を整えるよう望みます。

3 障がい者スポーツの普及、障がい者理解の推進

東京 2020 パラリンピックでさらに身近になったパラスポーツ、そして障がい者理解の推進を図るため、地域で競技人口が増加しつつあるボッチャをはじめ、チリの選手団が事前キャンプを行ったパラ卓球、パラアーチェリー、これまで取り組みを行ってきた車いすバスケットボールなど、パラスポーツに触れる機会を創出することを望みます。

4 チリ共和国のホストタウン事業の継続

三鷹市は国立天文台アルマ望遠鏡が繋ぐご縁でチリ共和国のホストタウンとなり、チリパラリンピック選手団の事前キャンプを受け入れました。東京 2020 大会が閉幕後も、三鷹市は引き続きチリのホストタウンとして、チリ文化の紹介、チリとの交流など継続的に取り組みを進めていくことを期待します。

5 新型コロナウイルス感染症対策の検証と対策を踏まえたオンライン等を活用したスポーツの普及

三鷹市主催のスポーツ事業等の実施にあたっては、東京 2020 大会でとられた新型コロナウイルス感染症対策を検証しその教訓を生かすべきです。また、オンラインや動画等を活用したスポーツ事業を効果的に推進することを望みます。

6 大学生がボランティアとして継続的に活躍できる枠組みの創設

市民の健康増進、障がい者理解、障がい者スポーツの普及、チリをはじめとする国際交流など、市が主催する東京 2020 大会等のレガシー事業、スポーツ健康関連事業等において、学生ボランティアが継続して活躍できる枠組が創設されることを望みます。

第2章 ラグビーワールドカップ、東京2020大会に関する事業実績と今後の取り組み

1 ラグビーワールドカップ

(1) 概要

2019年、4年に1度行われる15人制ラグビーの世界王者決定戦となるラグビーワールドカップが日本で開催されました。ラグビーワールドカップは、夏季オリンピック、FIFAワールドカップと並び世界三大スポーツイベントのひとつと言われています。各試合は東京スタジアムを含む日本全国12会場で行われ、東京スタジアムでは開幕戦及び3位決定戦を含む全会場最多の計8試合が行われました。

この大会を契機に、ラグビーの競技体験、試合観戦等を通じて、子どもたち一人ひとりの心と体に人生の糧となる貴重な体験の機会を創出するとともに、大人も一緒に楽しめるラグビーのイベントを開催することで、ラグビーと触れ合ったことのないすべての人々に競技の普及を行うことが求められると考えました。

合わせて、イベントへのブース出展やSNSを活用することで、世界中の人々に対し三鷹の魅力を発信することを同時に取り組むことが必要であると考えました。

(2) ラグビー競技の普及と三鷹の魅力発信

三鷹市におけるラグビーワールドカップに向けた取り組みは、三鷹市、府中市、調布市の3市で連携して実施された府中調布三鷹ラグビーフェスティバルを始め、タグラグビー教室や大会関連イベントでのブース出展が行われたほか、SNSを活用した情報発信等が行われました。

体験や試合観戦事業等により、広く子どもから大人まで、多くの三鷹市民に対しラグビー競技の普及を図るとともに、TAKA-1の販売やInstagramでのPR等を行うことで、世界への三鷹の魅力発信に向けた多彩な事業が実施されました。

実施事業一覧

- 1 府中調布三鷹ラグビーフェスティバル
- 2 タグラグビー出前教室
- 3 タグラグビー交流大会
- 4 トップリーグ観戦バスツアー
- 5 パブリックビューイング
- 6 ラガマルくんのラグビールールブック作成・配布
- 7 ラガマルくんのセブンスガイドブック作成・配布
- 8 RWC2019ファンゾーンへのブース出展
- 9 ホストシティパフォーマンス（試合前の三鷹阿波踊りと井の頭鼓響の披露）
- 10 5者協定の締結（三鷹市と府中市・調布市・東京サントリーサンゴリアス・東芝ブレイブルーパス東京）
- 11 各種イベントブースへの出展
- 12 SNS（Instagram）での投稿

(3) 事業の効果

ラグビー競技の普及については、「府中調布三鷹ラグビーフェスティバル」、「タグラグビー出前教室」等のイベントにおいて継続的に体験事業が実施され、参加した多くの子どもたちが競技を体験することができました。体験事業では、元日本代表選手も参加し、子どもたちと交流するなど、ラグビーをより身近に感じていただけるよう取り組まれました。また、ラグビーワールドカップや東京 2020 大会の開催に合わせて、子どもから大人まで、誰もが気軽に手に取り理解できるよう、キャラクターを用いたラグビーのルールブックを作成、配布することで、試合観戦において多くの市民が、よりラグビーを楽しんでいただけるよう工夫されました。

大会を契機とした三鷹の魅力発信については、ラグビーワールドカップ期間中に調布駅前等において行われた RWC2019 ファンゾーンにおいて、三鷹市の若手職員による庁内横断組織「東京 2020 大会等に向けた三鷹の魅力発信・気運醸成ワーキングチーム」のメンバーが三鷹の魅力発信ブースを設置し、三鷹産のお土産である TAKA-1 を販売したほか、Instagram で三鷹の魅力ある風景やスポットを英語で投稿・紹介するなどし、広く世界中の人々に三鷹の魅力が発信されました。

(4) 今後の取り組み

ラグビーワールドカップに向けた多様な取り組みを経て、大成功を収めた大会の後押しもあり、相乗的に市民のラグビー競技の認知は確実に高まったところです。

これからは、主に「子どもたちの体験」と「試合観戦」に注力し、連携協定を締結している東京サントリーサンゴリアス及び東芝ブレイブルーパス東京とも協力しながら、市民がラグビーに触れられる環境を提供し続けることで、ラグビー競技を普及及びまちの活性化につなげていくことが必要であると考えます。

今後取り組むべき事業一覧

- 1 タグラグビー出前教室
- 2 タグラグビー交流大会
- 3 5者協定関連事業（三鷹市と府中市・調布市・東京サントリーサンゴリアス・東芝ブレイブルーパス東京）



府中調布三鷹ラグビーフェスティバル
(2016～2021年)



ラグビーワールドカップ 2019
パブリックビューイング

2 東京 2020 大会

東京 2020 大会は、オリンピック 33 競技、パラリンピック 22 競技が開催された世界最大のスポーツの祭典です。地域連携会議では、東京 2020 大会に向けて取り組むべき事業テーマを大きく 5 つ掲げることとし、「子どもたちに向けた取り組みの充実」「障がい者スポーツの普及と障がい者理解の促進」「国際交流（ホストタウン事業）の推進」「三鷹市ゆかりの選手の応援と自転車ロードレースの PR」「大学生による地域の盛り上げ」に沿って取り組みを進めてきました。

一方、2020 年に開催予定であった本大会は、コロナ禍に伴い 2021 年に開催が延期され、競技も無観客で実施されることとなりました。関連イベントである聖火リレーや都立井の頭恩賜公園で予定されていた東京 2020 ライブサイトも中止となるなど、様々な競技の観戦や体験、イベントへの参加等、大会に市民が参加できる多くの貴重な機会が失われました。

提案していた多くの事業も、コロナ禍の中で中止や変更の必要が生じました。少しでも大会を身近に感じていただけるよう、オンラインでの三鷹ゆかりのアスリートの応援や、動画によるオリンピックの競技教室の開催、感染対策を徹底したチリの事前キャンプの受け入れなどによって、大会を通じた市民の感動体験を創出できたものと考えています。

《5 つのテーマ》（2019 年 9 月設定）

①「子どもたちに向けた取り組みの充実」

子どもたちに生の大会観戦をさせたい。日本代表や海外代表選手たちとの交流を通じた感動体験を提供したい。

②「障がい者スポーツの普及と障がい者理解の促進」

東京 2020 パラリンピックを契機に三鷹市における障がい者スポーツと障がい者理解を一層推進させたい。

③「国際交流（ホストタウン事業）の推進」

東京 2020 大会のテストイベントや事前キャンプ等を通じて海外選手団との交流を深めるとともに、都立井の頭公園の東京 2020 ライブサイトなどでの外国人観光客のおもてなし、三鷹の魅力を発信したい。

④「三鷹市ゆかりの選手の応援と自転車ロードレースの PR」

三鷹市ゆかりの選手応援を通じた市民感動体験の共有と市内で唯一会場となる自転車ロードレースで大会を盛り上げたい。

⑤「大学生による地域の盛り上げ」

大学生の若い力による大会関連ボランティアへの参加、三鷹の魅力発信など大会関連事業を通じてさらなるまちの活性化で大会を盛り上げたい。

以下、5 つのテーマ別に事業一覧、今後の取り組み等について記載しています。



東京 2020 大会等に向けた三鷹地域連携
会議設置（2019年3月）



チリパラリンピック選手団
事前キャンプ協定締結署名式
写真左フリオ フィオル駐日チリ大使
（2020年3月）



東京 2020 オリンピック
聖火リレー点火セレモニー
（2021年7月）



東京 2020 パラリンピック
聖火フェスティバル「三鷹の火」採火式
（2021年8月）



東京 2020 パラリンピック
聖火リレー点火セレモニー
（2021年8月）



パラアーチェリー女子個人
コンパウンドオープン
マリアナ・スニガ バレラ選手（チリ） 銀メダル
（2021年9月）

(1) 子どもたちに向けた取り組みの充実

東京 2020 大会が東京で開催されるにあたり、子どもたちが生で大会を観戦することが何よりも貴重な体験になることから、このような機会を是非とも設けてもらいたいと考えました。こうしたことから、市内がコースの一部となっている自転車ロードレース、オリンピック・パラリンピック聖火リレーについて沿道での観戦を大いに期待しました。また、小中学校ごとに応援する国や地域、競技を決めて学習していくことなども大切なことであると考えました。

一方で、市内すべての小中学校においては、『東京都オリンピック・パラリンピック教育』実施方針』の基本的枠組である「4つのテーマ（オリンピック・パラリンピックの精神、スポーツ、文化、環境）」と「4つのアクション（学ぶ（知る）、観る、する（体験・交流）、支える）」を組み合わせた多彩なオリンピック・パラリンピック教育も実施されるとのことから、次代を担う子どもたちが、ボランティアマインド、障がい者理解、平和の希求、人権の尊重、豊かな国際感覚などの資質を育成していくことが重要であると考えました。

実施事業一覧

- 1 歌舞伎体操教室
- 2 ポッチャ出前教室
- 3 車いすバスケットボール試合観戦
(カナダ代表、イラン代表チームの国際試合事前キャンプ受け入れ)
- 4 ホストタウン交流事業の実施（チリ選手への絵手紙、中学生による国歌斉唱動画、駐日チリ大使やチリ選手とのオンライン交流、チリ料理の学校給食）
- 5 オリンピアンによるバレーボール教室、パラリンピアンによる水泳教室
- 6 ミニトリアスロン体験
- 7 チリ料理の学校給食

ア 事業の効果

コロナ禍による無観客開催に伴い、子どもたちは大会を会場で観戦することができませんでしたが、テレビやインターネットなどを通じて選手たちの活躍に触れることで感動体験をしてもらえたのではないかと考えています。三鷹市では、大会期間中、動画配信やビデオ会議システムの活用により、チリ事前キャンプにおける選手とのオンライン交流、トリアスロン高橋侑子選手のオンライン応援イベントのほか、オリンピック・パラリンピック聖火リレー点火セレモニーの中継 PR や、三鷹市のオリジナル動画の配信などを行い、間接的な大会観戦の機会等を設け一定の効果があったと考えます。

大会前までには、日本の伝統的な「歌舞伎」による体操や、イベントでのポッチャ、トリアスロン等の競技体験ブースの出展、事前キャンプに訪れたチリ選手に向けた絵手紙の作成、カナダとイランの車いすバスケットボール選手との交

流等により、大会を契機とした文化学習や国際交流、障がい者理解が促進されたと考えます。

なお、本会議でも提案されていた、大会観戦後にその感動を絵や俳句・短歌などで表現する「ジュニア俳句・ジュニア短歌・スケッチコンテスト」は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できませんでした。

イ 今後の取り組み

三鷹の子どもたちにとって、オリンピック・パラリンピアンなどトップアスリートと触れ合う機会があることが大切です。三鷹市出身の東京 2020 大会オリンピックであるトライアスロン競技の高橋侑子選手や、バレーボールで活躍した多治見麻子さん、狩野美雪さん、狩野舞子さんを中心に、三鷹市ゆかりのアスリートに関連する競技の普及に引き続き取り組むことを期待します。さらに身近で気軽に継続的に体を動かす楽しさを子どもたちにも知ることが必要であることから、みたかダンスなどの普及、体育協会、地域スポーツクラブと連携した子どもを対象としたスポーツ機会の充実も望まれます。

パラスポーツの普及、障がい者理解促進の観点から、ボッチャ、パラ卓球、パラアーチェリー、車いすバスケットボールなどに触れる機会を継続的に設けることも重要です。

最後に、チリ選手の事前キャンプ受け入れを契機としたチリのホストタウンとしての事業を継続していくことで、国を超えた文化交流等に取り組んでいくことが重要であると考えます。

今後取り組むべき事業一覧

- 1 障がい者スポーツ（ボッチャ、パラ卓球、パラアーチェリー、車いすバスケットボール）の普及
- 2 三鷹ゆかりのトップアスリートによるスポーツ教室、体験事業の開催
- 3 チリ独立記念日（9/18）がある毎年9月に学校給食でチリ料理の提供
- 4 ホストタウン交流事業の実施（チリ関連行事等での中学生によるチリ国歌斉唱、国際大会で来日するチリ選手等との交流）
- 5 みたかダンスの普及
- 6 上記各事業を通じたオリンピック・パラリンピック精神に関する学びの充実



車いすバスケットボールカナダ代表選手
事前キャンプ三菱 WORLD CHALLENGE
CUP（2018年6月）



チリ国歌斉唱第二中学校合唱部
（2021年2月）

(2) 障がい者スポーツの普及と障がい者理解の促進

東京 2020 パラリンピックは、障がいのある方の活躍の場であるのと同時に、大会の開催に伴い選手や競技が注目されることで、パラスポーツの推進に加えて、障がい者への理解促進や、障がいのある人もない人も活躍する共生社会の実現の大きなチャンスと考えて取り組むことが重要と考えました。

また、パラスポーツ選手（卓球、アーチェリー、車いすバスケットボール）の事前キャンプを積極的に受け入れ、市民との交流を図ることで、競技や障がいへの理解を育み共生社会の実現を目指しました。

実施事業一覧

- 1 ポッチャみたかカップの開催
- 2 ポッチャ出前教室の開催（再掲）
- 3 東京大学馬術部との連携によるふれあい乗馬体験の開催（再掲）
- 4 パラリンピアンによる水泳教室の開催
- 5 車いすバスケットボール試合観戦及び競技体験を通じた選手との交流
（カナダ代表、イラン代表チームの国際試合事前キャンプ受け入れ）（再掲）
- 6 手話通訳付オンライン天文講座の開催
- 7 チリ事前キャンプ受け入れとホストタウンの登録

ア 事業の効果

障がいのある方でも参加できる「ポッチャ」「乗馬」を中心に、数年にわたって継続的に保育園への出前教室や市民を対象とした大会等を開催することで、参加した多くの市民に障がい者スポーツを普及しました。2019年12月にはじめて実施したポッチャみたかカップは、20チームを超える応募があり、子どもから大人まで、障がいの有無を問わず、だれもが楽しめる人気のスポーツとして地域に浸透しています。また、障がいの有無を問わず参加できる東大のふれあい乗馬体験も大変人気があります。2022年1月に100人定員の募集に350件の応募があるなどニーズが高いものであることがわかりました。

また、パラスポーツ体験教室やチリのパラリンピアンとの交流会、競技観戦の機会を提供したほか、聴覚に障がいのある方でも楽しめる手話通訳付のオンライン天文講座を開催し、障がい者の参加も促すことができました。

イ 今後の取り組み

東京 2020 パラリンピックが開催されたことで、市民の皆様にとって障がい者スポーツがとてもし身近に感じることができました。共生社会の実現に向けては、障がいのある方もスポーツを楽しむことができる環境整備と、障がいのある方への理解の促進が重要です。パラスポーツの普及は、誰もが楽しめるスポーツ環境の構築に資するだけでなく、パラスポーツを「みる、する、支える」ことで、そこで活躍する選手の方への理解促進につながります。

地域に浸透してきているポッチャの普及はもちろん、人気のある車いすバスケ

ットボール、もともと三鷹で盛んな卓球競技への障がい者の参加拡充、専用アーチェリー場のあるパラアーチェリーなど、市民の皆様がパラスポーツに触れる機会を日常的にしていくことが望まれます。

今回の取り組みを糧に、市民がパラスポーツに関わる機会を引き続き提供することで、障がいのある人もない人も活躍できるスポーツを通じた共生社会を目指すことを大いに期待します。

今後取り組むべき事業一覧

- 1 ボッチャみたかカップ、ボッチャ出前教室の開催
- 2 障がい者スポーツ（ボッチャ、パラ卓球、パラアーチェリー、車いすバスケットボール）の普及（再掲）
- 3 東京大学馬術部との連携によるふれあい乗馬体験の開催



ふれあい乗馬体験
(2015年～)



パラリンピアンの水泳教室
(2018年9月)



ボッチャみたかカップ
(2021年12月)

(3) 国際交流（ホストタウン事業等）の推進

東京 2020 大会に向けては、大会のほか関連するテストイベント等国际大会が、日本各地で複数開催されました。各大会には、大会に出場するために各国の代表選手が数多く来日することから、こうした選手団を三鷹市に事前キャンプ等でお迎えし、スポーツ、文化、教育等多様な分野で選手や市民等が交流することで、大会後も継続した国際交流の実現を目指しました。

実施事業一覧

- 1 車いすバスケットボール試合観戦及び競技体験を通じた選手との交流（カナダ代表、イラン代表チームの国際試合事前キャンプ受け入れ）（再掲）
- 2 チリ事前キャンプ受入とホストタウンの登録（再掲）
- 3 チリの料理教室（オンライン）の開催
- 4 手話通訳付オンライン天文講座の開催（再掲）
- 5 ホストタウン交流事業の実施（チリ選手への絵手紙、中学生による国歌斉唱動画、駐日チリ大使やチリ選手 とのオンライン交流、チリ料理の学校給食）（再掲）
- 6 みたかダンスによるチリ選手の応援
- 7 スペイン語講座（オンライン）の開催
- 8 チリ市民との東京 2020 大会女子サッカー合同観戦（オンライン）

ア 事業の効果

東京 2020 大会を含む関連国際大会を契機に、カナダ、イラン、チリの代表選手を事前キャンプに招致できたことで、子どもたちを始めとした多くの市民と選手が交流することができました。特に車いすバスケットボールカナダ代表選手による競技体験を受けた児童が、後日開催された同選手達の公開練習試合に応援に駆け付け、声援を送っていたことは印象的で、参加した子どもたちにとって良い体験を提供することができました。

また、チリとの事前キャンプにおいては、国の制度を活用しチリのホストタウンとして登録しました。その結果、市民によるチリ国歌の斉唱やオンライン交流会での応援事業のほか、スポーツに留まらない天文や料理、語学等チリを通じた文化交流まで裾野の広い取り組みをすることで、市民のチリへの理解を深めることができました。

イ 今後の取り組み

東京 2020 大会の事前キャンプを契機に、チリのホストタウンに登録し、選手を始めとしたチリの皆さんと市民が交流できたことは、本事業における最大の財産です。この交流を一過性のものにするのではなく、きっかけの一つになった天文（アルマ望遠鏡）を始めとした多様な分野において、国立天文台や在京チリ大使館等関係機関とも連携・協力を図りながら、チリと三鷹市が共に発展し続けられるよう継続した交流を行うことを大いに期待します。

今後取り組むべき事業一覧

- 1 アルマ関連講演会など国立天文台関連イベント、料理等チリ文化の紹介に関する事業
- 2 チリ独立記念日（9/18）がある毎年9月に学校給食でチリ料理の提供（再掲）
- 3 ホストタウン交流事業の実施（国際交流フェスティバルへのチリブース出展支援、チリ関連行事等での中学生によるチリ国歌斉唱、国際大会で来日するチリ選手等との交流）（一部再掲）



オンラインでのチリ料理教室
（2021年2月）



高山小学校とチリの中学校のオンライン交流
（2021年6月）



チリパラ卓球選手団事前キャンプ
（2021年8月）



チリパラアーチェリー選手団事前キャンプ
（2021年8月）

(4) 三鷹市ゆかりの選手の応援と自転車ロードレースのPR

東京 2020 大会に向けては、多くの三鷹ゆかりのアスリートが出場を目指していました。こうした選手を支援し、市民と共に応援していくことで、市民の大会への気運醸成を図るとともに、アスリートが活躍できる環境づくりを整備していくことが重要と考えました。特に東京 2020 大会への出場が有力なトライアスロンの高橋侑子選手を応援することを通じて、市民が東京 2020 大会を身近に感じ、大会の気運を盛り上げていくことができるものと考えました。

また、市内で唯一実施される大会競技「自転車ロードレース」について、全ての市民がこの貴重な機会を楽しめるよう、競技のPRに注力することで、大会を盛り上げられるよう取り組むこととしました。

実施事業一覧

- 1 高橋侑子選手応援イベント（高橋選手小学校訪問、トライアスロンワールドツアー横浜大会観戦バスツアー、東京 2020 大会オンライン応援）
- 2 オリンピアンによるバレーボール教室
- 3 各種横断幕の作成と横断幕への市民メッセージの募集
- 4 ゆかりの選手掲載オリパラ競技紹介パネルの作成・展示
- 5 アスリート支援事業（SUBARU 総合スポーツセンターの利用支援）
- 6 自転車ロードレースコースサポーターの募集
- 7 自転車ロードテストイベントの開催
- 8 自転車ロードレース8市連携事業

ア 事業の効果

三鷹市ゆかりの選手の応援では、各アスリートを広く市民が知り応援できるよう、みたが“2020”ニュースの発行やイベント等でのパネル展示、SNS の発信等により多様な手法でPRを行ないました。特に、高橋侑子選手については、小学校訪問、観戦バスツアーの開催、大会オンライン応援イベントなど多くの取り組みを実施し、市民一丸となった応援ができたものと考えます。

そのほか、パラローイングの有安諒平選手、三鷹で事前キャンプを実施したチリパラ卓球、チリパラアーチェリー選手団には、市民メッセージ入りの横断幕を作成し、市民とともに応援することができました。

また、SUBARU総合スポーツセンターにおいて、アスリートが大会に向けて優先して練習できる仕組みを構築・運用しました。

自転車ロードレースのPRでは、コロナ禍の中で無観客となった競技を自宅等から観戦できるよう、競技映像のネット配信情報が公開されたほか、同開催都市である多摩地域の8市と連携したスタンプラリー事業を実施する等、全ての市民が楽しめるよう取り組まれました。自転車ロードレースでは、150 人を超える三鷹市民がボランティアとして活躍するなど、ボランティアマインドも醸成され

ました。その結果、三鷹市が主催するスポーツイベント等でボランティアとしてご活動いただく「みたかスポーツサポーターズ」の設立（設立時 118 人登録）につながりました。

本会議から、学校ごとに応援旗を作成し、自転車ロードレースを観戦する案もありましたが新型コロナウイルスの影響で実現できませんでした。

イ 今後の取り組み

三鷹ゆかりのアスリートの応援事業は、今後も市民がスポーツへの関心を広げることにつながるものと考えます。三鷹ゆかりのアスリートは、スポーツ教室の開催などを通じて自らの体験を市民に伝えてれています。こうした良い循環は、より多くの市民がスポーツに親しみを覚えるうえで重要なことと考えます。アスリートを市民が応援し、アスリートから市民が学び、さらに三鷹市がSUBARU総合スポーツセンターなどでアスリートの練習機会を提供することで、まち全体でゆたかなスポーツ風土を育むよう取り組むことが必要です。

また、東京 2020 大会において三鷹市唯一の開催競技となった自転車ロードレースについて、引き続き多摩地域の開催自治体と連携し、広域的な普及事業に取り組むよう期待します。

今後取り組むべき事業一覧

- 1 高橋侑子選手など三鷹ゆかりのアスリートに関する情報発信、応援事業の実施
- 2 三鷹ゆかりのトップアスリートによるスポーツ教室、体験事業の開催（再掲）
- 3 アスリート支援事業（SUBARU 総合スポーツセンターの利用支援）の継続
- 4 自転車ロードレース8市連携事業



トライアスロン
高橋侑子選手表敬訪問
(2021年8月)



バスケットボール
本橋菜子選手表敬訪問
(2021年8月)



パラローイング
有安諒平選手表敬訪問
(2021年9月)

(5) 大学生による地域の盛り上げ

三鷹市には、国際基督教大学（ICU）、ルーテル学院大学、杏林大学が所在し、同3大学の他にも、広域的に連携協定を締結している5つの大学（亜細亜大学、日本女子体育大学、東京女子大学、東京外国語大学、電気通信大学）があります。大沢地区には、東京大学馬術部の馬場もあり、野川沿いを散歩する市民に親しまれています。これまでも三鷹市と各大学は、多様な連携事業を相互に行い、地域貢献とよりよい学生の教育活動の推進等に取り組んでいます。

こうした地域特性を踏まえ、学生が東京2020大会を通じて、スポーツやボランティア等で活躍することにより、市民スポーツの活性化や大会への気運を醸成し、大学と連携しながら多様な事業に取り組むことを目指しました。

実施事業一覧

- 1 大学祭（ICU、ルーテル学院）へのオリパラPRブースの出展
- 2 東京2020大会都市ボランティア募集説明会（杏林大学、日本女子体育大学）
- 3 大学による東京2020大会気運醸成事業（亜細亜大学、日本女子体育大学によるオリパラに関する講演会等）
- 4 チリパラアーチェリー事前合宿練習会場の提供（ICU）
- 5 三鷹体操のリニューアル（日本女子体育大学）
- 6 東京大学馬術部との連携によるふれあい乗馬体験の開催
- 7 東京2020大会等でのボランティア気運の高まりをきっかけとしたみたかスポーツサポーターズの募集

ア 事業の効果

東京2020大会を広く学生に知ってもらうため、杏林大学、日本女子体育大学において学生を対象に大会関連ボランティアの説明会を開催したほか、ICU、ルーテル学院の大学祭において大会PRブースを出展し、学生と協力してポッチャ体験ブースを実施する等、大会に向けた気運を醸成しました。

また、日本女子体育大学と連携し「三鷹体操」の動画をリニューアルするとともに、東京大学の学生と協力し「ふれあい乗馬体験」を開催しました。さらに、大会で活躍したボランティアの皆さんが、引き続き三鷹市のスポーツを支える人財としてご活躍いただけるよう、「みたかスポーツサポーターズ」を新たに組織する等、大会後も、市民が気軽に運動をし続けられる運動習慣作りやスポーツを支える環境整備等に取り組みました。

チリの事前キャンプにおいては、パラアーチェリー選手の練習場としてICUのアーチェリー場を借りることができ、良好な練習環境を提供してもらったこともありマリアナ選手が銀メダルに輝いたことは、多くの市民を喜ばせてくれました。

イ 今後の取り組み

東京 2020 大会を通じて、三鷹市と大学との連携がより活性化されたことは貴重な財産です。大学・学生と連携した市民スポーツの推進に寄与する事業を継続実施していくことで、学生が地域とともに成長する取り組みが期待される一方で、大学の専門性や学生の活動が地域の活性化につながるなど、大学・学生と地域が相互に交流し活動できるよう支援していく必要があると考えます。

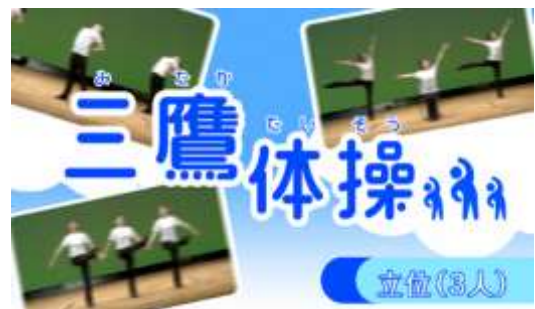
市民の健康増進、障がい者理解、障がい者スポーツの普及、チリをはじめとする国際交流など、市が主催する東京 2020 大会のレガシー事業、スポーツ、健康関連事業において学生ボランティアが継続して活躍できる枠組が創設されることを望みます。

今後取り組むべき事業一覧

- 1 大学との連携による健康都市づくりに関する事業効果の検証、事業改善
- 2 ウォーキング、ランニングなど運動習慣の定着に向けた事業への協力
- 3 障がい者理解、障がい者スポーツ普及に向けた協力
- 4 チリをはじめとする国際交流事業への協力
- 5 三鷹体操、みたかダンスなどの普及
- 6 みたかスポーツサポーターズ活動の充実
- 7 学生ボランティアが継続して活躍できる枠組の創設



大学学園祭でのボッチャ体験
(2019年11月)



三鷹体操動画のリニューアル
(2021年3月)